「平語和歌絵本亀の尾山」注釈

書誌解題（小野春菜）

本書は西川祐信作画の絵入り本であり、延享四年（1747）に出版されている。清泉女子大学附属図書館では、上中下巻の全三巻のうち下巻を蔵することから、翻刻も下巻を対象とする。

国文学研究資料館の「国書データベース」（https://kokusho.nijl.ac.jp/work/712403）では、「統一書名」が「絵本亀尾山」とあり、松平進（1988）『師宣祐信絵本書誌』（日本書誌学大系 57。青裳同書店）も同様である。国文学研究資料館に蔵する『稀本零葉集 紙魚のなこり』第五輯（昭和 45 年〈1970〉頃成立。以下、『紙魚のなこり』と略記）では、「絵本亀の尾山」と「の」字を付す。この解題では、清泉女子大学附属図書館蔵本の題箋を資料名とした。

丁数は全12丁であり、見返しが剥離している。本文には丁付があるが、7丁裏は「亀下ノ七ノ十」とあり、8 丁裏は「亀下ノ十一」とある。内容には飛躍がないため、その理由は不明といえる。『紙魚のなこり』には7丁表が収録されており、「らくに描いたもので、出来は佳もなく不可もないが、啓蒙的なものだから、多くの読者を持つたものであろう」と解説がある。

『国書総目録』の「国書所在」では、慶應義塾大学附属図書館、東京大学附属図書館の二館が示されている。「国書データベース」では、清泉女子大学附属図書館本を含め、上記二点以外に 10 か所の所在が確認できる。このうち、清泉女子大学附属図書館本を含め、相愛大学図書館春曙文庫に蔵する全三巻、東海大学付属図書館桃園文庫に蔵する下巻のデジタル画像が公開されている。松平進（1988）は、上記以外にもニューヨーク公共図書館、ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館、シカゴ美術館、東京国立博物館（以上全三巻）、ボストン美術館（下巻のみ）の所蔵を示し、いずれも同一版であることを明らかにする。

松平進（1988）は「歌を含む源平合戦時代の説話集である」（p.227）と述べ、その要約を掲載するが、本資料の全文は掲載されていない。そこで、本文理解を図る取り組みとして、

（1）清泉女子大学附属図書館に蔵する下巻の翻字

（2）該当箇所の注釈

以上 2 点を試みる。いずれも学生による共同制作であり、注釈は稿末の参考文献をもとに作成されている。図書館ホームページ掲載にあたり、講師（小野春菜）が最終確認を行った。

注釈

1 冷泉隆房卿

平安後期から鎌倉時代の公卿、歌人。父は四条隆季。母は藤原忠隆の娘。平清盛（注14参照）の娘を妻とし、平家没落後は正二位、権大納言となる。冷泉大納言。

2 小督殿

中納言藤原成範の娘。はじめ冷泉隆房卿と深く愛し合ったが、入内後は高倉天皇の寵愛をうける。この出来事から平清盛に憎まれ、嵯峨野に身を隠したが捜し出されて宮中に戻る。範子内親王の母。後に清盛に捕えられ、尼にされて追放された。小督局。

3 玉章

手紙。

4 さがの

嵯峨野。京都市右京区嵯峨。東は太秦、西は小倉山、北は上嵯峨の山麓、南は大堰川（桂川）を境とする平坦な野。古くから、秋草や虫の名所として知られる。

5 平相国

（平氏の太政大臣の意で）平清盛を指す。

6 つぼね

宮中や貴人の邸宅などで、主としてそこに仕える女性の住む私室として、仕切りへだてた部屋。

7 歌妓

宴席などで歌をうたって興をそえる女。うたひめ。芸妓。

8 阿佛

阿仏尼。鎌倉中期の女流歌人。平度繁の養女。安嘉門院に仕え、安嘉門院四条ともいう。のちに藤原為家の側室となり、冷泉為相、為守を産む。

9 大鳥の宮

大阪府堺市鳳北町にある大鳥神社を指す。

10 重盛

平重盛。平清盛の長男。六波羅小松第の屋敷にちなんで小松内大臣と称された。注16参照。

11 飛鹿毛
飛ぶように早い鹿毛の意で命名したか。

12 白鞍
前輪と後輪に銀を張った鞍。

13 神馬
神の乗用に供する馬の意で、神社に奉納した馬。

14 清盛
平清盛。平忠盛の長男。

15 かひねそよ帰りはてなば飛かけりはごくみたてよ大鳥の神
『平治物語』（金刀比羅宮蔵本）には、「かひこぞよかへりはてなばとびかけりはごくみたてよ大鳥の神」と清盛の歌として記載がある。

16 小松内府
平重盛の別称。注10参照。

17 岩しろ
紀伊国日高郡岩代（現在の和歌山県南部町）。牟婁郡との境に近く、熊野詣の街道に当たる。岩代松で有名。

18 重景
与三兵衛重景。『平家物語』巻十「維盛出家」によれば、父は与三左衛門重康であり、平重盛に仕えた。

19 深栖陵之助
『鎌倉実記』巻七に「深栖陵之助光重は源仲政が三男頼政が弟なり」と記載がある。

20 立野のまき
陸奥国の牧とする。

21 宮城の
歌枕。『八雲御抄』巻五などに陸奥とあり、現在の仙台市東方一帯の野とされる。

22 仲綱
源仲綱。源頼政の長男。歌人としても活躍した。

23 宗盛
平宗盛。平清盛の三男。

24 建礼門院
平徳子。平清盛の次女。高倉天皇中宮、安徳天皇の母。

25 宇佐の宮
現在の大分県宇佐市南宇佐にある宇佐神宮を指す。

26 平頼盛
平忠盛の第五子。清盛の異母弟。正二位権大納言。その居を池殿といい、池の大納言と称した。

27 唐綾
中国から伝来した綾。綾を浮織にしたもの。日本においてはその製法にならって織ったものにもいう。

28 ひたたれ
直垂。古代から中世にかけて、庶民や地方武士が用いた上着。また中世後期、近世に礼装として武家に用いられた上下一対の衣服。

29 水旱
「水旱」の表記は災害を指すが、本資料では水干(服装)を指すと推測される。

30 宜専法師
詳細不明。

31 能登守
能登の国守。近世、川柳などでは、平教経（のりつね）の称として用いられる。

32 白峯崇徳院
「白峯」は、讃岐国阿野郡（香川県坂出市）松山。北部山腹に四国八十八箇所第八十一番札所の白峰寺と、崇徳天皇の白峰陵があり、後に白峰神社が鎮座する。「崇徳院」は第七十五代崇徳天皇。白峰神社のホームページ「由緒のコラム」には、孝明天皇が崇徳天皇の御霊を慰め、未曾有の国難に加護を祈ろうとしたことから、「幕府に御下命になり四国・坂出の「白峰山陵」から京都にお

迎えして、これを祀らう」としたが叶わぬまま亡くなった旨が記されている。また、「白峰陵」は、香川県坂出市青海（おうみ）町にある。白峰（綾松山）の山頂に位置し、白峰寺境内の頓証寺の北西に接する。

33 御廟
「御廟」の「ご」は接頭語で、廟を敬っていう語。「廟」は、霊を安置する堂。祖先の霊をまつるみたまや。また、皇族など高貴な人の霊をまつった殿堂を指す。

34 さこ神
詳細不明。山の神か。

35 とぶさ
鳥総。木の先や枝葉の先を指す。木を伐ったあとに、「とぶさ」を立てて山の神をまつる習俗があり、「とぶさ立て足柄山に船木伐り木に伐り行きつあたら船木を」（万葉集・巻三・三九一・三九四・満誓）や、「とぶさ立て船木伐るといふ能登の島山今日見れば木立繁しも幾代神びぞ」（同・巻一七・四〇二六・四〇五〇・家持）はその習俗を詠んだ歌。これに類する理解のもとに、中世以降相当数の歌が、この万葉歌を本歌に詠まれた。

36 神詠
神が詠んだとされる和歌。

37 ねりぬき
生糸を経（たて）とし、練糸を緯（ぬき）として織った絹。練貫織り。

38 へぎ
へぐこと。薄くけずり取ること。

39 糸おどし
鎧の威の一種。絹の組糸で札（さね）をつづったもの。

40 拝謁
身分の高い人や目上の人に面会することをへりくだっていう語。

41 打吟じ
詩歌や俳句などを作ったり、うたったりすること。

42 旅衣
旅で着ている衣服。

43 かたしきて
『日本古典文学全集　御伽物語』巻一・第四「宿直草」に、「かのだうの縁に袖かたしきて」とあり、注釈に「衣の袖の片方を敷く」とある。

44 きぬがわ
北上川に入る川の名。

45 かきおき
置き手紙。

46 貞節
夫の死後、再嫁せず墓を守り舅姑に仕え子を育て、模範となること。

47 孝心
孝行の心。

48 鶴が岡
神奈川県鎌倉市、鶴岡八幡宮の社域を指す。

49 社参
神社に参拝すること。

50 四海なみしづか
天下泰平の意。

51 祝詞
神前で祈る時に神官が述べる言葉。

参考文献（2025年1月22日最終閲覧）
ジャパンナレッジ『角川古語大辞典』
ジャパンナレッジ『国史大辞典』
ジャパンナレッジ『新版日本架空伝承人名事典』

ジャパンナレッジ『新編日本古典文学全集』平家物語(1)、平家物語(2)
ジャパンナレッジ『大漢和辞典』
ジャパンナレッジ『日本国語大辞典』
ジャパンナレッジ『日本古典文学全集』64 御伽物語
ジャパンナレッジ『日本人名大辞典』
ジャパンナレッジ『日本大百科全書』
ジャパンナレッジ『日本歴史地名大系』
日本文学 Web 図書館「辞典ライブラリー」『歌ことば歌枕大辞典』

永積安明・島田勇雄校注『日本古典文学大系31　保元物語　平治物語』岩波書店、1961年
加藤謙斎『鎌倉実記』（横山邦治蔵本） https://kokusho.nijl.ac.jp/biblio/100265807/
白峰神社ホームページ https://shiraminejingu.or.jp/